

【16】 ちょっといい話



一昨年(2017年)の10月、小さな捨て猫を飼いだめた事は昨年のお知らせで書きました。ご記憶の方も有るかと思います。

とてもいたずらで、鳥は捕る・鼠は捕る・モグラは捕る・トカゲは捕る・誠に困ったものでした。そのチロが7月に入ってからちょっとおとなしくなってきました。そのうちに、あまり外に出なくなると体調の悪

さが気になりだしたのです。そしてあっという間に死んでしまいました。僅か10日ぐらいの出来事でした。

チロの亡骸はチャコにも見せてお別れをさせました。チャコは匂いを嗅いで少しなめて別れを惜しんだようです。ミコは驚いたように嵐を吹きました。その後は2匹ともなんだか張り合いのない、手持ち無沙汰なような姿が見られました。

寺に飼われて僅か1年10ヶ月、多分2歳に満たない命だったと思います。でも、野良のままであったならそれほど長らえる事もなかった命だと思います。安心して眠る場所を得、飢えに苦しむ事も、人に追われる事もなく過ごせた時間は幸せだったのだと思います。

きっと何かの病気を持っていたのでしょう、私が最期を看取り、死に水も与えられました。

今まで、寺に動物が飼われていなかった時間はほんの僅かです。ほとんどが野良犬猫・捨て犬猫たちです。彼らは人に嫌われるために生まれてきたのではありません。本来なら愛情を注がれ、人の姿におびえる事無く命を全うできたはずなのにと考えると、一番悪いのは人に他なりません。

弱い命にやさしく出来なくて、なんで人に対してやさしく出来るのでしょうか。

この暑さのせいなののでしょうか、子供の虐待事件が多数報道されていると感じます。まだ1歳に満たない子供、身を守る術のない小さな命が犠牲になる。聞くに堪えがたい痛ましい事件まで起きています。弱者に対する慈しみの心、ペットからも学び取る事が出来ます。